

SEISEKI

聖蹟人

#9

theme

ひらく人

新しい扉をひらいてみよう。

聖蹟桜ヶ丘には

自分らしく輝く春がある。

Take
Free



1 サラリーマンからの華麗なる転身！ ジューシーないちごを育てる 「名農家への道」

多摩市をはじめ、都内近郊からもお客さんがやってくる、新倉農園。多くの人に愛される、みずみずしくて甘いいちご。丹精込めていちごを育て続けている新倉 隆さんに話を伺った。

Interview, Photo : Tamaki Onda

「いちごは幸せの果実」 食べたらみんな笑顔になる

「インターネットで予約を受けているのですが、2～3月はすぐ枠が埋まります。うちはリピーターが多いので、皆さん楽しみにしてくれているみたいです」と笑顔で話すのは、新倉農園の経営者・新倉 隆さん。もともと農業を営んでいた父の跡を継いで、始めたのだそう。「もう60年近くになりますが、僕らが

子どもの頃はこのあたりはみんな農家だったんです。メインは蚕。桑畑がたくさんあり、繁忙期は家族総出で管理をしないといけなくて、蚕の面倒は子どもの役目。僕は幼稚園に入る前から手伝っていたんです」。それが大変だったと昔を振り返る新倉さん。「友だちはみんな、親が土日休みで外食に行ったり、夏休みは旅行したりしていたけど、そんなヒマはなかった(笑)。だから、農業はやりたくないと思っていたんです」

新倉さんの意識が変わったのは、結婚後、家族と山梨県までいちご狩りに行ったとき。今から20年ほど前だが、その農園は当時珍しい高設栽培でいちごを育てていた。地面から約1メートルの高さに栽培槽を設置することで、腰を屈めずに比較的ラクに作業ができる。「農業の大変さを知っていたので、この栽培法はいいなと(笑)。実際いちごを食べてみたら、すごくおいしくて。その場ですぐ農園の方に話を聞きました。費用

新倉 隆さん

多摩市出身。実家が農業を営んでおり、後を継いで農家の道へ。現在は、いちごとブルーベリー畑を経営し、リピーター客も多数。研究熱心で、より良い果物を育成するために、努めている。



【写真上】新倉農園のビニールハウス内。地植えではなく、高設栽培で育てている。温度や肥料を調整しながら管理する。

【下】新倉農園で作られる品種は、紅ほっぺ。真っ赤で大ぶりの果実は美しく、思わずうっとり。

【市民クリエイターの体験レポート!】

近くを通りかかったときに知った新倉農園さん。2023年からいちご狩りを5回、ブルーベリー狩りを4回楽しんでいます。牧歌的な雰囲気と親切なスタッフさんも魅力。大切に育てられたいちごは、みずみずしくて甘く、その味わい深さに毎回感動しています。ビニールハウスを出てすぐのベンチで、採れたてをいただくのがおすすめ。自然の恵みをいただくという体験のおかげで、子どもも農作業や果物狩りに積極的に。(市民クリエイター 佐藤寿子さん)



ブルーベリーもあふよ!



【写真左上】2023年3月の初めてのいちご狩り。【上右】翌年3月のいちご狩りでは、子ども自ら大きくて甘いいちごを見つけるように。【下】我が家はみんなブルーベリー好き。優しく摘み取る姿に子どもの成長を感じる!



や、初心者でもできるのかとかね」

さらに、農園の受付で来園者リストを見たら、東京から来ている人が多く、いちごを求めて山梨まで来ているのなら、多摩市でやったら来てもらえるかもしれない、と思ったのだとか。その数年後父が亡くなり、農地を手放すか決断するときに来た。新倉さんは一念発起し、仕事を辞め、いちご農園をやろうと決意する。「やっぱりやるなら自分が好きなものを育てたかった。だから、いちご農園にチャレンジしました。いちご栽培は1年の中で長期間に及ぶので、裏作でブルーベリーも育てています」

8月の後半から準備をして、9月に苗付け、6月まではいちごの栽培。ブルーベリーは、裏作として12月からスタートし7月末から1ヶ月ほど収穫できるようにしている。

「いちごは真っ赤になって、ヘタが上がると食べ頃。ブルーベリーは実が14mm

ぐらいになると一番おいしいんです。そのおいしさを知っているとリピーターになってくれるんですね」。ブルーベリー園ではおいしいブルーベリーの収穫方法や、見分け方を伝えることを大切にしている。

「いちごは12月から2月中旬頃までは比較的手をかけなくても大丈夫。でも、暖かくなってくると株が暴れてきて、少し味が落ちるので、春までおいしいいちごを作るのは難しいです。うちは、5月下旬でも練乳なしで甘いいちごが食べられます」。その秘訣は?と聞くと、「それは大変ですけど、いちごに対して労力と時間をかけることですね」と新倉さん。現在、紅ほっぺ一種に絞り、日々研究している。「ここは、少し素朴で里山のな雰囲気があるので、非日常的な体験ができると思っています。年1回、いちごを食べながら、家族や友人といい時間を過ごしてもらいたいですね。いちごって、本当

に魅力的な果物。毎年、最初にできたいちごを見ると、私自身も感動します。食べてみるとおいしくて、こんないちごを作ることができて幸せです」

丁寧に心を込めて。その想いがいちごのおいしさへとつながっていく。多摩の地で開かれた農園で、自然の恵みがもたらす“感動”をぜひ味わってほしい。



新倉農園

📍 多摩市落川 1179

🕒 いちご狩り開園期間 2月～5月下旬
土・日 10:00～売り切れるまで。※要予約
ブルーベリー狩り開園期間 7月下旬～8月下旬

🌐 <https://www.niikuranoen.com/>

サッカーが好きな子どもを育てる

スポーツで身につく、

「子どもたちの成長ストーリー」

週末になると、校庭で楽しそうにボールを蹴る子どもたち。小学生向けサッカーチームの代表が感じる、子どもへの指導の難しさ、そして魅力とは？

SEISEKI
PEOPLE 2

Interview : Utaha Nishihama / Photo : Yufumi Omori



FC.SEISEKI

● 練習会場：多摩第一小学校、連光寺小学校

① 練習日：土・日・祝日、

火・水・木(夜)

<https://fcseiseki.localinfo.jp/>



週末、校庭での練習では、最後に学年対抗でミニ試合も。夏には合宿があり、長野や山梨など近隣の県へ。「一芸を持って」と書かれたサインボールは、島田さんが卒団生に贈っている。



島田 洋平さん

高校卒業後に上京し、多摩エリアに住む。子どもの頃からサッカーが好きで、2010年息子の小学校入学と同時に、FC.SEISEKIのコーチへ。現在は代表として活動している。

一步一步成長できるようにサポート

聖蹟桜ヶ丘エリアの小学生を対象としたサッカーチーム FC.SEISEKI。土・日・祝日の学校校庭での練習や試合のほか、平日夜の体育館練習を行っている。2010年からコーチとして入り、監督を経て、代表を務めているのが島田洋平さんだ。

「僕は群馬県出身で、小学生からサッカーに夢中でした。上京して多摩エリアに住み、息子が小さい頃に一緒に多摩川沿いでボール遊びをしていました。息子が多摩第一小学校に入学したとき、ちょうど改装した直後で、1年間だけ校庭が全面芝生だったんです。サッカー好きとしては、ここでボールを蹴りたい！と思ってコーチになりました(笑)」

FC.SEISEKI に入部テストはなく、初心者でも経験者でも入れるのが魅力。いろんな子どもがいるが、サッカーを好きに

なってもらうための指導を心がけている。「試合に負けると楽しくないので、勝つためにはがんばることも必要だねと声かけしますね。コーチになって感じたのは、言葉次第で子どもたちは変わるということ。頭ごなしに言ってもダメで、問いかけたり、自分で考えてもらうように接しています」。ソロスポーツではなく、団体競技なので、協調性も身につくと語る。「実は、4年ほど前にフットサル関係の仕事に転職したんです。コーチ経験の影響ですね」と島田さんは笑う。まんべんなく学ぶことも大事だけど、好きなことや得意なことを伸ばすのも大切なこと。人生の中で楽しく続けられるものを見つけて、努力をしてほしい、そんなコーチたちの啓蒙の思いが FC.SEISEKI には息づいている。そして、それに応えるように子どもたちの賑やかな声が響き、日々成長の姿を見せている。

あれ気になる??
歩いて見つけた

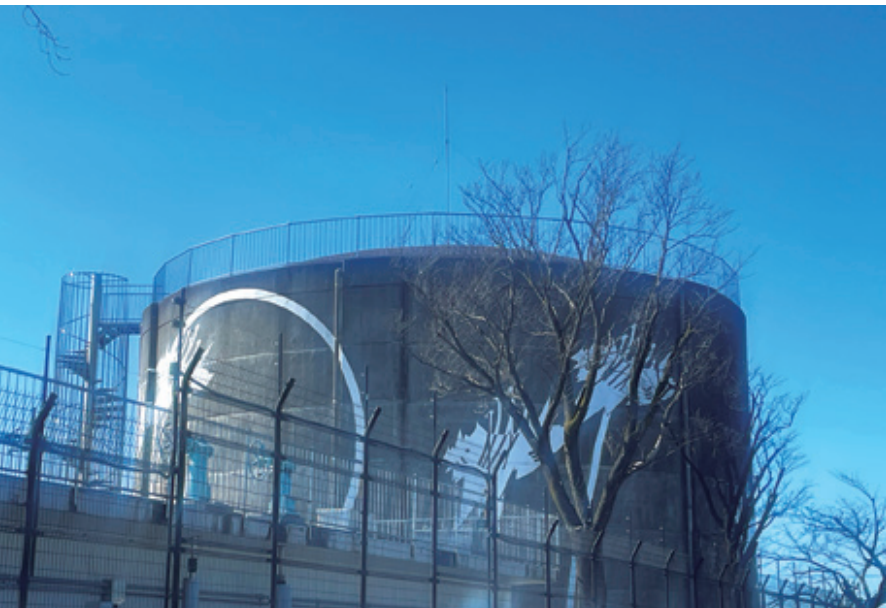
セイセキの珍光景



!?!? >>>>



突如現れる巨大アートの正体は!?



多摩川の下にはもう1本川が流れ、そこを泳ぐ龍が頭を上げるスポットがある。それは、国立、聖蹟桜ヶ丘、田園調布、二子玉川など。いずれも住みやすいと人気のまちだ。「輪華」を見た知人からそんな話を聞いた河内さん。作り話と思っていたが、いい水が流れる場所では文化も栄える、と捉えるとながら嘘ではないのかも？

いろは坂を登ると現れる、桜ヶ丘配水所の配水塔に描かれたアート。この作品の作者・版画家の河内成幸。さんが多摩市在住と知り、お話を伺ってきた。

こちらの作品「輪華」は、1989年に作られたもの。タンクの老朽化が進み、いい修復法はないかと多摩市が河内さんに相談したのがきっかけだ。「聖蹟桜ヶ丘といえば、多摩川。そこから、たま(=円)と、配水塔や多摩川から水を連想して、龍(=水神)をモチーフにしました。龍は宝玉を抱えているから、そこもつながっていますね」と河内さん。芸術家として一番うれしいのは、みんながつい立ち止まり、その人の解釈で作品を楽しんでもらえること。セメント地にニュートラルな白のペンキで描かれた「輪華」は、多くの市民から注目され、今でも「あれは何!?!」と見る人の想像をかき立てている。

セイセキ歴史Walk

Text: Satomi Yoshioka

#8

時代をひらいた関戸合戦

まちなに残る史跡は、関戸合戦の激戦を思い起こさせる

鎌倉時代末期、上野国の御家人^{※1}・新田義貞が鎌倉幕府軍を破った「分倍河原合戦」と「関戸合戦」は、時代を動かした戦いです。当時の公家や武士は幕府の政治に不満を抱いており、後醍醐天皇が「幕府を倒せ」との論旨^{※2}を出したことで、倒幕の機運が高まっていました。

『梅松論^{※3}』『太平記^{※4}』によると、1333年(元弘3年)5月8日に挙兵した義貞は鎌倉へと進撃を続け、15日には分倍河原で北条泰家(第14代執権・北条高時の弟)率いる幕府軍と激突。初戦は幕府軍が優勢でしたが、翌日、増援を得た義貞軍が盛り返します。幕府軍は多摩川を越えた関戸へ撤退。防衛戦となります。有力御家人が奮戦するも戦死し、幕府軍は鎌倉へ敗走します。そして18日に始まった義貞による「鎌倉攻

め」によって、22日、幕府は滅亡したのです。激戦を偲ぶ史跡として、関戸には「無名戦士の墓」、旧鎌倉街道沿いの地藏堂前に「関戸古戦場跡」の標柱が建っています。源氏一族であった義貞ですが、幕府からは冷遇されており、倒幕で大きな手柄を立てました。しかし、自身の運命を切り拓いた鎌倉攻めからわずか5年。1338年(延元3年/暦応元年)7月、「藤島の戦い(福井市)」にて38年の生涯を終え、歴史の舞台から姿を消しました。

※1 鎌倉幕府の将軍と主従関係を結んだ武士。
※2 天皇の命を蔵人(天皇の側近)が代理として発布した「天皇の命令書」。
※3 南北朝時代に成立した歴史物語・軍記物語。
※4 鎌倉幕府滅亡から南北朝時代へ至る、約50年間の大動乱を描いた軍記物語。

参考資料: 第5回多摩川流域歴史セミナー「関戸合戦と関戸の地域性」、多摩市デジタルアーカイブ「分倍河原・関戸合戦の史料」、ふくい歴史王「新田家に眠る悲運の勇将、新田義貞」



[写真上]天守台(関戸城跡)、分倍河原・関戸両合戦勝利の後、義貞が陣を置いたと伝わる。 [下]無名戦士の墓。数千人の死傷者が眠る。

資料: 多摩市史通史編1
3関戸合戦の史料と伝承 図5-43 無名戦士の墓
©多摩市デジタルアーカイブ

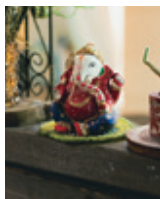
開業15年のヘアサロンで働きながら育まれた、地域愛 お客さまと一緒に見つけ出す、 その人に合う「カラー」

ローズマリーやオリーブ、豊かな緑がエントランスを彩るヘアサロン「GREEN」。このまちでお客さまとの信頼関係を築き上げてきた店長に、オープン当初からのストーリーを聞いた。

Interview, Photo : KAEDesign

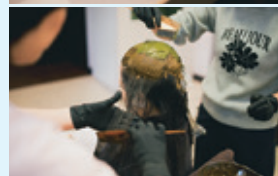


[写真上左]植物やドライフラワーであふれた店内。コーディネートは、股野オーナーが担当。[上右]ゆったりとした待合コーナーは、リラックスして過ごせる。[下]オーナーが、インドのヘナ畑視察の際に購入した、ガネーシャ。



ヘナカラーを作り出すプロセスはこちら

粉末のヘナをペースト状にし、髪へ塗布する。粘度により、塗りやすさも変わるので、慎重に調整。ヘナ（オレンジ）のほか、ターメリック（黄）、インディゴ（藍）の天然染料を混ぜ合わせ、色を作り出す。



相川 あずささん

「GREEN」立ち上げメンバーのひとりで、2026年3月から店長に。健やかな髪や頭皮に導いてくれる天然ヘナの魅力を広げ、スタッフも元気で働きやすい環境づくりに注力。

GREEN

◆ 多摩市関戸 4-11-7
シャルム第2 聖蹟桜ヶ丘
☎ 10:00～19:00 ※金・土は
1時間延長して営業 休：火曜
☎ 042-401-9571
<https://green-nhd.jp/>

自然と笑顔のあふれる場所に

聖蹟桜ヶ丘駅からのんびりと歩き、大栗川の手前に位置する「GREEN」は、隠れ家的な雰囲気のある美容室だ。天然100%のヘナカラーを得意とし、開業してから15年が経つ。「夜、仕事帰りにためぎの親子に遭遇したり、春になると店先にはつばめが巣を作るんですよ」と、店長の相川あずささんは身の回りで起こる“自然体験”を楽しそうに語る。

23区で美容師として働いていた相川さんは、退職のタイミングで当時、本部

で管理職をしていた股野ひで夫さんに声をかけられ、「GREEN」の立ち上げから関わることになる。「オープン当初は、まずお店のことをまちの人に知ってもらおうと、スタッフ全員でポスティングしたのが印象に残っています。地図を分割して歩き回り、まちを知ることができました」

ヘナの葉っぱを粉末にしたものをお湯で溶き、塗布していくのがヘナの施術。ヘナは、茎やじゃりなどの不純物が入ると、仕上がりが変わってしまう。そこで「GREEN」では、ヘナの名産地である、インドのラジャスタン州の畑で採れ

た葉のみを粉末にした100%の天然ヘナにこだわっている。「ヘナは髪ハリコシを導いてくれるもの。色は、その人の髪質などによって発色の仕方が変わるので、丁寧なカウンセリングを大切にしています。お客さまと一緒に自分に合う色を作り出していく、その工程が楽しいんです」と相川さん。たとえば白髪なら隠すのではなく、自然とぼかす発想。ヘナは髪が傷むことがないので、施術を受けた人はいつまでも髪本来の健康や美しさを保つことができる。そのためのサポートをする姿勢に、まちの人が今日も集っている。



ヨガを続けることで、自然と体の隅々まで意識を向けられるようになった、と話す藤原さん。最近のリラックス時間は、お灸をしたりハーブティーを飲んだり、“脱力”することが多いのだそう。

続けることで変化を感じる

心と身体を「ひらく」時間 自分と対話するヨガとアロマの魔法

多摩川のほとりで心身と向き合う、ヨガインストラクター・
アロマセラピー講師の藤原なおこさんにインタビューしました。

Interview, Text, Photo : Tamaki Onda

大切にしているのは「安心」。 自分の“好き”を伝えていく

藤原さんがヨガに本格的にハマったのは40代の頃。健康に良さそう、と気軽に始めたはずがのめりこみ、毎日のようにスタジオに通うようになったのだとか。「心と身体が変わっていくのを感じて、面白い！もっと知りたい！」と思って学んできたら、ご縁が重なっていつの間にか伝える側に立っていたんです。身体の感覚に意識を向けることで「今日の私は背中が硬いな」「肩に力が入っているな」と気づくようになり、「自分の身体と絆を持つことができた」と思ったのだそう。

50歳という節目のタイミングでヨガのクラスを持つようになり、自分の「好き」を追究して道をひらいてきた人でもある。植物に囲まれてヨガを学んできた藤原さんにとって、多摩川を臨むRIVER PARK 聖蹟桜ヶ丘という場所も特別だ。ヨガを通して「自然と一緒に生きている」と感

じる体験をすることで、マットの外でも同じく優しい気持ちになれると考えているそう。教えるというより「伴走者」として一緒に取り組みたい。そんな気持ちから始まった藤原さんのクラスでは、参加者が安心して、力みを手放せる環境づくりを大切にしている。

藤原さんは実はアロマセラピー歴も長く、幼少期に自宅にあった山椒の葉の香りに癒やされた原体験から、精油の種類や効能を学び始めた。現在はアロマとヨガを組み合わせたクラスを担当しており、「こうして好きなものを一緒にお伝えできるって、とても幸せですね！」と笑顔を見せる。ハーブについても学んでおり、さまざまな知識を使って心身と対話する藤原さんのユニークな活動にも注目だ。

RIVER PARK 聖蹟桜ヶ丘では、初めての人に向けてワンコインのヨガ体験クラスも実施中。藤原さんの優しいオーラとアロマに癒やされながら、心と身体の声に耳を傾けてみては？

SEISEKI
PEOPLE 4

藤原 なおこさん

多摩市在住歴28年。RIVER PARK 聖蹟桜ヶ丘ほか、多摩エリアのヨガスタジオでクラスを持つ。アロマの知識も深く、定期的にワークショップを行う。

Aroma Goods



[写真上]ワークショップでも活躍するアロマオイルや、お手製のネック型アイビロー。

[下]セイクリッドアロマカードで今の自分に必要なモノがわかり、香りの調合にも役立つ。

藤原なおこさん担当 「アロマリラックスヨガ」クラス

◆ RIVER PARK 聖蹟桜ヶ丘

🕒 毎週木曜 20:15 ~ 21:15

※初回のみ¥500でお試しできる、“ワンコイン体験レッスン”も実施中。

<https://www.riverpark.tokyo/>

物語のようなご縁が生まれる!?

「絵」を通じて心がひらき、絆が芽生える場所

武蔵総社・六所宮のひとつである小野神社には、さまざまな「ひらく」物語が存在していた? 歴史ある神社で起こった不思議な縁のお話を伺った。

Photo : Yukari Takano



拜殿には今年の干支にちなんだ白馬と黒馬の躍動感あふれる原画が、向かい合わせに掲げられている。この対の作品も優子さんが描いたもの。その御神意を映した御朱印が社務所で授与されている。

SEISEKI
PEOPLE

5

滝瀬 優子さん

小野神社で禰宜を務める。「そうだゆうこ」として画家、絵本作家としても活動中。境内の干支画制作や、瀬織津比咩大神の御朱印帳も手がけるなど、活躍している。
<https://www.flowcha.com/>



ライフワークである絵の力で、地域との縁も開いていく

「私の描いた絵本を、神社に奉納したことがきっかけだったんです」

現在小野神社の禰宜を務める滝瀬優子さんは、もともと画家で絵本作家。小さい頃から両親や親戚、学校の先生などから絵を褒められ、中学生の時に東京都主催のコンクールに入選するなど絵の才能を発揮してきた。絵を見て癒やされた人々に、明るく穏やかな世界が広がることを願い、全国各地の神社に絵本「ふらちゃ」を奉納していた。そんな中、小野神社にも訪れることになる。

その際、現・宮司（当時は禰宜）と、これまでの歩みや絵に込めた思いを話し、3日後に再会。人生の大きな扉が開く。「まるで物語のような急展開で、過去のパズルのピースまで埋まっていくようでした（笑）。小野神社に古より縁結びのご利益があったことも、この巡り合わせを導いたのでしょう。神社に嫁ぎ、今では画業のみならず禰宜として地域の方々とも触れ合っております。これからも絵を通して皆さまの心が開かれ、良き御縁と絆が広がっていくことを願っています」

小野神社の三柱はあめのしたはるのおおみ天下春大神、せおりつひめのおおみ稲倉魂大神、いなくらたまのおおみ比咩大神。その中でも、天下春大神は開拓の神とされ、武蔵国開拓の祖神でもあることから、これからも地域の方々にも良縁をひらいてくれるでしょう。

武蔵国一之宮小野神社

📍 多摩市一ノ宮 1-18-8

🕒 常駐日時：月・木～日・祝日・毎月の一
9:30～16:30

☎ 042-338-1151 <https://ononinja.or.jp>



2025年春のリニューアルは、多摩中央公園だけではなく、パルテノン多摩のリニューアルや中央図書館の新設なども伴う、多摩センターの賑わい活性化を狙う一大プロジェクト。公園には、常設の遊具が備わり、子連れ利用が圧倒的に増えたという丸山晃平さん(写真右)。リニューアル後の企画でも、市民意見を取り入れているそう。

ち多 から摩の ニートアップ

同じ多摩市にある、
多摩センターと聖蹟桜ヶ丘
というふたつのエリア。
多摩中央公園のリニューアルを
担当し、引き続き運営に
携わっている
TAMA セントラルパーク JV の
丸山さんと、
互いのエリアの魅力や
共通する問題点について
語り合った。

多摩中央公園
指定管理者 TAMA セントラルパーク JV
丸山 晃平

×
京王電鉄
聖蹟桜ヶ丘プロジェクトチーム
高橋 克典

高橋—多摩センターは企業のまちというイメージでしたが、多摩中央公園のリニューアルを経て、おしゃれなスポットが増えたという印象です。公園には、大芝生広場があったり、常設の遊具も豊富でいろいろな利用ができそうですよね。私たちが運営管理をしている「せいせきカワマチ」は、河川敷なので工作物を置くことが難しく、非常にうらやましいです(笑)。

丸山—ありがとうございます。私は、聖蹟桜ヶ丘は、プライベートで買い物によく行きます。駅から直線でショッピングセンターに行けて、外の空気を吸いたくなったら、「せいせきカワマチ」に出て開放的な気分になれる。河川敷に出やすい構造は、まちの魅力ですよね。多摩中央公園は、おっしゃる通り多目的に使ってもらうのがテーマのひとつです。改修時の基本設計を考える上でも市民意見を取り入れました。平成30年から今後の公園の使い方や過ごし方に関する市民ワークショップを行って、それがパークライフショーというイベントになりました。開催者も参加者も楽しめるイベントで、その過程を経て公園が完成しました。

高橋—なるほど。多摩中央公園のイベントも気になっていました。月1回で「水辺のマルシェ SP」を行っているのも、運営が大変じゃないかと。「せいせきカ

ワマチ」も屋外なので、私たちも天候が懸念事項ですね。

丸山—雨や風の問題は難しいですね。聖蹟桜ヶ丘でも地域の方を巻き込んだ企画をされていますよね？

高橋—地域の方に気軽に「せいせきカワマチ」に出店いただけるよう、年に2回オープンデイという公募出店型マルシェをやっています。また、出店者同士の交流の輪を広げるため、LINEを活用したオンラインコミュニティもあります。

丸山—私たちも市民の活動だけで、イベントが回っていくのを目指しています。5月末に大きいイベントを予定しているのですが、旧富澤家住宅を利用した市民共同企画を進行中です。昨年11月から月1回会議をして準備していますね。なんとなくですが、同じ多摩市でありながら、聖蹟桜ヶ丘と多摩センターは、なかなか回遊しづらいイメージがあるんですよね。

高橋—それは私も感じています。路線バスはありますが、人によってはハードルが高いんでしょうね。そのハードルを超えるために、互いがやっている情報を発信していくことが大事なかと。

丸山—多摩中央公園も「せいせきカワマチ」も、屋外空間を求めてくる方が多いでしょうし、今後、うまくジョイントしていけたらいいですよね。

夢ある人たちの「離陸」をサポート

コワーキングスペースが 提供する、明るいミライ

多摩市で働く人、学ぶ人、クリエイティブな活動をしている人が集まる、LILIC（リリク）。スタッフや利用者はこの場所の魅力をじっくりと聞いてみた。

Interview、Text、Photo：Tamaki Onda

SEISEKI PEOPLE
6
7

【利用者対談】

鈴木孝之さん

株式会社映人代表取締役。主に、企業向けの研修VTRや広報映像の制作を行う。LILICに入居してから、1年程度。

高木 剛さん

合同会社ツタデザイン代表。商品パッケージやブランドのロゴデザインなどを手掛ける。LILICオープン当初からの利用者。

利用者である高木さんが制作したお菓子のパッケージも展示されている。



スタッフと利用者の 交流が活発！

—LILICに入居したきっかけは？

鈴木 一昨年まで調布市に事務所を構えていたのですが、コロナ以降は特に「こちらから積極的に人のいる場所に行かない」と感じるようになりました。LILICでは交流の機会を重要視されていて、私のやりたいことと合致していたので、入居を決めました。

高木 前職の都合でこちらに移り住んでみたら、自然が豊かで、かつ都心に出ようと思えば結構近いので、すごく気に入って。自分の事業を始めようと思ったときに「気に入っているこの場所でやりたい」という思いが募り、



【写真上】左から、鈴木さん、高木さん。LILICでよく顔を合わせるようになり、仲が深まった。今後は一緒に事業する可能性も!? 【下左】カフェコーナーがあり、ドリンクや軽食もフリーで利用できる。【下中】カメラ

マンやライターなど、クリエイティブな仕事をしているスタッフも多く、LILICオリジナルZINEも発行。【下右】開放感のあるデスク。作業にも集中できる。

たまたま駅前でLILICさんを見つけてすぐ入居しました。

—LILICの魅力を教えてください。

鈴木 スタッフの皆さんも利用者の皆さんも、交流を作ることを常に考えていらっしゃるの、非常にありがたいなと思っています。仕事の中で「これできる人いないかな？」というときにも相談できる。映像制作会社なので紙媒体は領域外なのですが、広報誌のご依頼が来たときに、こちらでライターをやっている利用者の方とおつなぎいただいて。お仕事の幅が広がっていますね。

高木 いろんな方と知り合う機会がありますよね。あと、人間味があるなと思っています。都心のレンタルオフィスはシステムチックで簡素なところが多いですが、ここではちょっと困ったときにお話できるのがすごくありがたいな。スタッフさんものびのびと、自分事としてお仕事をされている印象があります。

—多摩地域で事業をやってみたいと思っている方へメッセージをお願いします。

鈴木 地域の中で事業を盛り上げていくことが大事かなと。こうして交流する中でコラボしてお仕事を作っていくたり、地域の中で事業を回していくことがまちの盛り上がりにつながると思っています。ぜひ一緒に盛り上げていきましょう！

高木 ここは「小さく始めやすい場所」かなと思います。すぐ都心に行ける、距離感もあってバランスがいい。事業をやりたいと思っている方が一歩踏み出すのに、多摩はすごくいい場所だと思います。



SEISEKI PEOPLE 8

マネージャーshotoさんが語る、LILICの魅力

スタッフを代表して、マネージャーのshotoさんにインタビュー。
LILICで働く中で感じているものとは？

同じ空間でお仕事をする中で、自然とあたたかい交流が生まれるLILIC。shotoさんは「お客さま同士でもつながるきっかけを紡いでいращやるなという印象があります」と語る。月に1回ほどの交流イベントは、季節やスタッフの関心ごとをテーマにしたものや会員持ち込みの企画など多種多様。「利用者の方に声をかけて参加いただき、コミュニケーションのきっかけ作りに。イベントのアイデアは会員さまとの会話の中で生まれることもよくあります」

LILICは社会人だけでなく学生の利用も歓迎している。交流会では目指している学部と近い業種の方とお話できるなど、貴重な機会が生まれることも。「勉強に煮詰まったとき、スタッフとの交流で気分転換できる空間を作れたらと思っています」

shotoさん

LILICのマネージャーを務めながら、フリーランスのカメラマンとしても活動中。日頃から、利用者間の交流やつながりをサポートし、心地よく施設を利用できるように尽力している。



LILIC

📍 多摩市関戸 1-11-3 桜ヶ丘プラザビル 5F
🕒 5:00 ~ 23:00
有人時間：平日 10:00 ~ 18:00、
土・日・祝 10:00 ~ 15:00
初回受付：平日 10:00 ~ 17:30、
土・日・祝 10:00 ~ 14:30
☎️ 042-400-0186

気になるあの人の履歴書 vol.1

まちの“気になるあの人”に直撃取材する新企画。第1回目は赤枝医院院長・赤枝朋嘉さん。
院内だけで完結しない取り組みの背景には、「誕生」と「まち」を同じ線で結ぶ視点がありました。

Interview、Text : Akira Andoh / Photo : KAEDesign

赤枝 朋嘉

Tomoyoshi Akaeda

(赤枝医院 院長)

Q1

最近興味のあることは？

A. トレイルランニング。自然の中に入ると、余計なものが削ぎ落ちていきます。もちろん順位やタイムを競う場合もありますが、私は「山の中で自分と向き合う時間」といった意味合いです。

Q3

聖蹟桜ヶ丘って
どんなまち？

A. 自然と都会が、昔と今がちゃんと混ざるまち。最近は、才能のある若い人が増えて活躍しているのもうれいんです。そういう新しい人たちを排除しないでつないでいきたいです。

Q5

ストレス解消法は？

A. 自然に戻る(走る・泳ぐ・サーフィン)。仕事は交感神経が優位になりがちなので、どこかで抜かないと続きません。昔はインドアでしたが、いつからか体を動かすことで副交感神経優位に整えるようになりました。

My LiFe's Hint



トレイルランニングは、赤枝さんにとって心身を整える時間。自然は厳しく、自分の中に驕りの気持ちが出てきた瞬間、すぐに転んでしまう。今自分が何をしているのか「集中」、支えてくれる人への「感謝」、自然の前での「謙虚」、心を保つ「穏やかさ」、その土台となる「健康」。この5つは、すべてに通じる指針となっている。

「子どもが誇りに思える まちを作りたい」

赤枝 朋嘉さん

2005年12月、多摩市関戸に赤枝医院を開院。「極上のマタニティリゾートへ」を掲げ、当時まだ珍しかった“滞在して迎える出産”という発想の先駆的クリニックとして知られる。

赤枝医院

<https://akaeda-clinic.com/>

Q2

あなたのプチ自慢を教えてください！

A. ぜんぶ肯定できるところ。過去の出来事がひとつでも違っていたら、今の自分にはなれていないはず。今の自分を肯定できるから、これまでのいいことも悪いことも全部「これで良かった」と言える。それがプチ自慢ですね。

Q4

休日の過ごし方は？

A. 犬と過ごす。犬の一生は短い。だから休日くらいは、片時も離れず一緒に過ごしています。命の現場にいと、「何のために生まれてくるのか」を考えることが増えました。

「おめでとう」

「おかえり」が見えるまち

まちの中で祝福される“誕生”を、丁寧な経験できるクリニックを開く。そんな思いを抱き、聖蹟桜ヶ丘へやってきた赤枝朋嘉さん。新参者の自分を受け入れてくれたまちへの恩返しもあり、「次に活躍する人へ、命も役割もつなぎたい」と話す。

赤枝医院は、まちと人のつながりを「目に見える形」にする取り組みを重ねてきた。地場の野菜や地元ローカルの飲食店の品を取り入れ、院内の食事に「まち」を持ち込んだり、反対に院内で生まれた親子のつながりを“まち”へ開いたり。聖蹟桜ヶ丘の名物イベント「KAOFES」も、もともとは赤枝医院で生まれた親子が集う「夕涼み会」が始まりだった。

これらの取り組みは「産婦人科医だからこそ、やる意義がある」と赤枝さんは語る。「子どもの頃に見た景色って、原風景として心に残るものだと思います。子どもたちに将来思い出してもらえる景色を、まちに増やしていきたいですね」

プレオープン

3/31
Tue.

まち・ひと・駅をつなぐ複合交流拠点 「タトネ tatonner」がオープン!



グランドオープン

4/28
Tue.

カフェ・貸棚・シェアキッチン・レンタルスペースを内包したタトネ。
「人」に焦点をあて、住まわれている方や来街された方にとって
それぞれの「好き」や「得意」を活かした活動ができた、「ほっ」とできる居場所として、
聖蹟桜ヶ丘における新たな交流と賑わいを創出します。



写真はイメージです。

1 カフェ

日中はコーヒーやランチを楽しむ憩いの場、夜はお酒を飲みながら自然と会話が生まれる場所として、時間帯によって異なる表情を持つカフェレストラン。地域の人々が自然と集まり、他の機能と連動しながらコミュニティの核となる空間です。小上がり席などおさま連れのお客さまにも使いやすい設計になっています。

2 貸棚

ひと箱につき一人が店主になれる「棚貸し」スタイルの店舗です。おすすめ書籍やハンドメイド作品の販売や展示など、自分だけのショップを気軽に持つことができます。また、ここを訪れる人にとっては、地域のクリエイターや隣人の個性に出会える発見の場となります。

タトネの4つの機能



3 シェアキッチン

「いつか自分のお店を持ちたい」「得意なお菓子を振る舞いたい」という夢を叶える、多摩市初の駅近シェアキッチンです。シェアキッチンで作ったパンや菓子を貸棚スペースで販売することもできます。食を通じたファンづくりや、起業への第一歩をサポートします。

4 レンタルスペース

ワークショップ、展示会、ポップアップストアなど多目的に使える空間です。単なる「場所貸し」にとどまらず、利用者の「教えたい」「披露したい」という想いを実現し、地域の方とつながるための活動拠点として機能します。

オープン情報

3月31日(火) プレオープン!

WATが運営するカフェでは、自社ブランド「Marked」の焼き菓子やアイスクリーム、「Coffee Wrights」のコーヒーの他、紅茶、アルコールなどの軽食をご提供。ランチやディナーのお食事は、グランドオープンをお楽しみに。貸棚・シェアキッチン・レンタルスペースの見学、相談、申込み受付も実施します。お気軽にお立ち寄りください。
営業時間:8:00~17:00(カフェLO16:30) 休:月・火曜

※プレオープン・グランドオープン日のみ、火曜も営業します。

4月28日(火)

午前 8:00
グランドオープン!

ウェブサイトはこちら!



タトネ (tatonner)

📍 多摩市関戸 4-4-2 ブラウド京王聖蹟桜ヶ丘 1階

🕒 8:00 ~ 21:00 (LO20:30) 休: 火曜

※シェアキッチンのみ 6:00 ~ 24:00

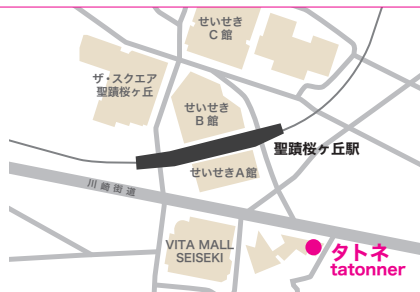
【プロジェクトメンバー】

事業主体: 京王電鉄

カフェ運営: WAT

建築設計: HAGISO

プロジェクトデザイン: トーンアンドマター



第2回 聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント カワマチシンポジウム 誌上レポート!

みんなでまちづくりについて考える、カワマチシンポジウム。去る2月14日に、アウラホールにて第2回目が開催された。今年、インプットセッションや来場者で行うワークショップがプログラムに加わり、パワーアップ! 本誌では、その様子をレポートする。

Photo: Yufumi Omori



START シンポジウム始まります!



会場が人で埋まり、定刻13時からスタート。聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメントの三橋 誠



代表理事より、せいせきカワマチで生まれた賑わいを街なかに広げていくことをご来場の皆さまと考えていく機会としたい、と挨拶。

STEP 1 【まちとの関わり方を知る】

基調講演:
「プレイスメイキング」
による地域共創の
まちづくり

園田 聡氏
(有限会社ハートビートプラン
代表取締役)



プレイスメイキングの手法で、全国各地でまちづくりをサポートしている園田氏による基調講演。現在、長野県松本市で行っているプロジェクトなどを事例としながら、解説。地域の方が中心となって動きながら、パブリックな空間を居心地のいい場所に変えていく楽しさを語った。

STEP 2 【まちをみつめる】

インプットセッション: 聖蹟桜ヶ丘の魅力と可能性

聖蹟桜ヶ丘で働き、まちへの深い思いを持つ3名のゲストを迎え、「聖蹟桜ヶ丘の魅力と可能性」をテーマにトーク。来場者も参加する形式でアイデアを募った結果、多彩な考えが集まった。



写真
右から...

ファシリテーター: 木内瞳吾氏(おむすびカフェ くさびや)
野淵幹生氏(株式会社 島根修治氏(LILIC コワーキングマネージャー)
(株式会社 横倉明治氏(有限会社横倉不動産 代表取締役)
石塚計画デザイン事務所 代表取締役) 園田 聡氏(有限会社ハートビートプラン代表取締役)

STEP 3 【みんなで考える】

ワークショップ:
聖蹟桜ヶ丘でプレイスメイキングするなら何したい?
4つのテーマに分かれてワークショップを実施した。

文化・カルチャーを 育てる

「大人の遊び場があると楽しそう!」「音楽イベントも気になる」などの意見が。



自然を活かす・ 楽しむ

「大栗川で川床」「どんぐりで菓作り」といった、斬新さが光る!



子どもの居場所 をつくる

「子どもの学びにつながるフリーマーケット」「川の斜面を活用した遊具」と意見が行き交う。



体を動かして 遊ぶ

SUP、カヌー、水上ジップラインといった、川で遊ぶ多様なアイデアが集まった。



まちづくりの第一歩!

ワークショップを経て、ひとりでは難しくても、人が集まれば実現に近づくと感じた参加者も多かったはず。そんな充実感を抱きながら、最後は全員で記念撮影を行い、シンポジウムは幕を閉じた。



【問い合わせ先】

「せいせきカワマチ」を使って、何かをやってみたい方の参加をお待ちしております。
お問い合わせは「聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント」メールアドレスまで! → seiseki@keio.co.jp

京王聖蹟桜ヶ丘SC 開業40周年 を迎え、 地域密着の 企画が進行中!



今回紹介するのは…
京王聖蹟桜ヶ丘 SC
[左から]
船戸 玲於、松岡 慈

せいせき
京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター

京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターは、この春開業40周年を迎えます。お客さまがショッピングセンターで過ごして下さった大切な時間が、私たちの宝物だと思っています。近隣の小学校に通うお子さまが紹介してくれたスポットを巡る「おさんぽMAP」や近隣の園児の皆さまに描いていただいたお絵描き展示、多摩市で活動されている団体の演奏やダンスをご披露いただくミュージックフェスなど、地域の皆さまに楽しんでいただけるよう、アニバーサリー企画を実施中です。企画を通して、お客さまへの感謝とともに、ショッピングセンターやお店の新しい魅力を発信しお客さまにお伝えできたらと考えています。私たちはテナントさんとの交流も大切にしており、ほぼ毎日フロアに足を運んでいます。その際に、日課のように来店して下さるお客さま同士がベンチでお話しているシーンを見かけることもあり、とてもうれしく感じます。気軽に足を運び、楽しんでもらえる施設づくりを目指し、次の50周年に向けて歩んでいきたいです。



これからも、
この街に彩りを。



[写真上] 京王聖蹟桜ヶ丘 SC 館内でも見かける、40周年記念のロゴ。[中] 今年冬に開催された「たのしいおやつフェス」。ワークショップはお客さまが殺到! [下] A館7階のくまざわ書店では、多摩市に関連した本を集めた棚を作り、地域の魅力を発信している。

市民クリエイター募集中!

京王電鉄と情報誌『BALL. (ボール)』を発刊するけやき出版は共同で、聖蹟桜ヶ丘のまちの魅力を取材・発信し、地域の価値創造を目指す取り組みの1つとして、市民参加型ローカルマガジンの発行を行っています。本誌は、聖蹟桜ヶ丘“People”ガイドをテーマに、毎月1つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャー。本誌では、有志の市民クリエイターとして聖蹟桜ヶ丘の“まちの魅力”を深掘りする方々を広く募集しています。

〔問い合わせ先〕

けやき出版

TEL : 042-525-9909 (平日 9時~18時)

MAIL : e-info@keyaki-s.co.jp

まちの掲示板

せいせきさくらがおかメリーゴーランド Vol.4が開催! 聖蹟桜ヶ丘のドーナツ屋(HUGSY DOUGHNUT)とコーヒー屋(tak beans)主催のマルシェイベント。今回は、初の2DAYS。主催者が偏愛する、全国の素敵なお店やアーティストが大集合。今年もドーナツとコーヒーで乾杯しよう♪
日時:4月11日(土)10時~20時、12日(日)10時~18時
※荒天中止 場所:多摩川河川敷(一ノ宮公園&せいせきカワマチ)
主催:せいせきさくらがおかメリーゴーランド実行委員会

編集後記

多くの方たちにご協力いただき、『セイセキ ZINE #9』が完成しました。#9のテーマは、『ひらく人』。多摩の地で、自分の世界をひらいている人はみな力強く、生き生きとしていました。新しい季節が始まる今、何か挑戦したいと思っているなら、その想いを大切に。ぜひ自分の道を切り拓いてみてください。



過去号をすべて
アーカイブした
WEB版もぜひ!!

市民クリエイターのみなさん

安藤 賛さん、大森悠史さん、恩田 環さん、佐藤寿子さん、西浜詩葉さん、松竹暢子さん、三宅祐子さん、吉岡さとみさん、KAEDesignさん

セイセキ ZINE とは？

セイセキ ZINE (セイセキジン) は毎月1つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャーする、市民参加型ローカルマガジンです。多摩市在住の有志の市民クリエイターを募り、セイセキ愛に満ちた誌面づくりをしています。

多摩第一小学校校庭にて、FC.SEISEKI の練習風景。 Photo：大森悠史

セイ
セキ
ZINE

発行日：2026年3月19日 発行：株式会社けやき出版 企画：京王電鉄株式会社 制作：けやき出版 BALL.COMPANY 事業部
デザイン：松竹暢子 (Elstella Design Studio)、三宅祐子 編集：弓削桃代 印刷：シナノ書籍印刷株式会社